

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.153

発行:平成 27 年 4 月 1 日

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の 20 日から)

「観葉植物の植替え」-シェフレラ、ゴムノキなど- (実費)

とき 平成 27 年 4 月 14~19 日 1 人 5 鉢まで

午後 1:30~3:30 定員各 10 名

講師 緑のセンター相談員



「洋ランの植替え」-シンビジウム-1 人 2 鉢まで (実費)

とき 平成 27 年 4 月 25 日(土)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 旭川蘭友会副会長 飯田 幸雄さん



「洋ランの植替え」-コチョウラン-1 人 2 鉢まで

とき 平成 27 年 4 月 26 日(日) (実費)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 旭川蘭友会 奥泉みどりさん



「神楽岡公園・春の自然観察会」-小学生以上-

とき 平成 27 年 5 月 10 日(日) 春野草を探そう

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 旭川帰化植物研究会代表 塩田 惇さん



「ミニ盆栽を作ろう」 教 ¥1,000

とき 平成 27 年 5 月 17 日(日)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 旭川ミニ盆栽会顧問 長谷川 八郎さん



「山野草講座」-寄せ植え作り- 教 ¥1,000

とき 平成 27 年 5 月 31 日(日)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 北海道山草趣味の会 森下 光晴さん



【平成 27 年度 新講座のお知らせ】

「春の温室で写真教室」

5月10日(日)09:30~12:00

講師:北海道写真協会 定員20名
旭川支部長 馬場 和美さん



☆連続講座①②は全4回の全てに参加できる方各20名

①「家庭菜園でタネから育てる 野菜づくり講座」

~菜園準備とポットに種まき~

5月2日(日) 教材費 1,000 円

②「種まきとさし木で作る 花の寄せ植え講座」

~さし穂作りとさし木の方法~

5月23日(土)教材費 1,000 円

※連続講座①②のお申込み詳細は広報誌「あさひばし」に掲載
お申込み開始は4月20日(月)~ (講師:緑のセンター相談員)

「バラの育て方」 定員20名

初心者への植え付けからせん定

5月24日(日)13:30~15:30

講師:緑のセンター相談員



展示会のご案内

(初日は午後から、最終日は4時まで)

「野の花写真展」4月4日~30日

「洋ラン展」4月24日~26日

「ミニ盆栽展」5月15日~17日

「山野草展」5月29日~31日

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。 (")

「サツキの展示会と相談」

5月29日~31日(日)

10時~16時 随時・無料

旭川さつき会



〈園芸の基礎知識〉 花のしくみと役割

～ 雄しべと雌しべの構造 ～

前回簡単に説明しましたが、2回目の今回は「雄しべ」と「雌しべ」の構造について説明します。

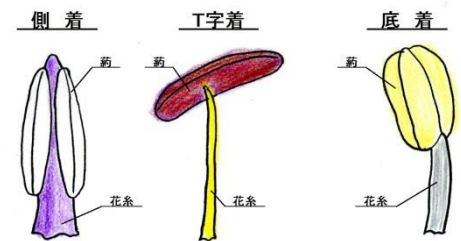
■雄しべ:「雄ずい」とも呼び、花粉をつくる器官で、「葯」と「花糸」で構成されます。雄しべの数は、ショウガ科などの1本からツツジ科などの特定少数、キンポウゲ科などの不特定多数まで幅広い変化があります。ツリフネソウ科やキク科など葯が互いに合着する場合を「集葯雄ずい」と呼び、ダイズなど全ての雄しべが合着する「単体雄ずい」、スイートピーなど2束になる「2束雄ずい」、トモエソウなど多数の束になる「多体雄ずい」に区分することができます。

・「葯」は花粉をつくり、収納する役目があります。葯の花糸への着き方は、最も多い「側着」と、スカシユリなどT字形につく「T字着」、ハスなど花糸の先端につく「底着」に分けることができます。

・「花糸」は葯を支える役目をします。普通は柄状で明確ですが、モクレンのようにリボン状で葯との区分が不明確なものなど変化も多いです。

■雌しべ:「雌ずい」とも呼ばれ、果実や種子をつくる雌性生殖器官で「柱頭」と「花柱」、「子房」で構成されます。雌しべは1個から複数個の心皮が合着して袋状の構造になり、胚珠を包み込んで保護し、受粉・受精を行います。雌しべを構成する心皮の数が、マメ科など1つのものを「単心皮雌ずい」と呼び、アブラナ科など2つのものを「2心皮雌ずい」、アヤメ科など3つのものを「3心皮雌ずい」と区分します。裸子植物では胚珠が心皮で包まれていませんので、未発達の雌しべといえます。

(参考資料: 八坂書房「図説植物用語事典」、小学館「園芸植物大事典」ほか)



葯の花糸へのつき方



子房断面で見る心皮のつき方

緑の相談 QアンドA (27)

4月下旬に自宅で花のタネ5種類(マリーゴールド、フロックス、クリサンセマム、フウセンカズラ、キバナコスモス)を播きました。あとで友達に聞きましたら、タネには発芽するのに光が必要なタネと光に当てると発芽しないタネがあると聞きました。私が今回播いたタネはどれにあたるのか教えてください。

タネには発芽するために必要な条件として「水」と「温度」、「酸素」があり、これを「発芽の三要素」といいます。このほか、タネによってはご指摘のとおり「光」の条件を必要とするものもあり、これを加えて「発芽の四要素」と呼ぶこともあります。多くのタネは光の条件に関係なく発芽しますが、発芽に光を必要とするタネもあり、これらを「好光性種子」又は「光発芽種子」と呼びます。また、反対に光が当たると発芽しないタネを「嫌光性種子」又は「暗発芽種子」と呼びます。光の影響を受けにくいタネを「中間性種子」と呼ばれることもあります。一般に好光性種子は雑草や微細なタネに多いといわれています。

今回ご相談のありました5種類のタネのうち「クリサンセマム」が「好光性種子」ですので、タネまき後の覆土は極薄くかけるか、覆土をしないで軽く手で押さえておきます。また、「フロックス」は「嫌光性種子」ですので、タネが完全に隠れるくらいに覆土します。これ以外のタネにつきましては、光の影響を受けにくい「中間性種子」ですので、それぞれタネが隠れる程度に覆土してください。タネまき後は発芽に必要な条件を確保し苗づくりを楽しんでください。

(参考資料:「サカタのタネHP」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー (Q & A)」を掲載しています。こちらでもご利用ください。

植物の病害虫

その24 「タネバエ」

1 加害される植物

マメ類、ウリ類、ムギ類、トウモロコシ、ネギ類、ホウレンソウ、ダイコン、ハクサイ、アスパラガス、イネ科牧草などを加害します。



土塊に産卵中の成虫



食害中の幼虫

2 被害状況

幼虫が^{しゅつがまえ}出芽前の種子や^{しゅし}出芽間もない^{しゅつが}根茎を^{こんけい}食害します。このため、^{しゅつがふのう}出芽不能^{かる}になったり、^{けっかぶ}辛うじて^{こし}出芽しても^{けっかぶ}生育初期の段階で^{さいはん}枯死するなどで^{けっかぶ}欠株を生じます。マメ類では^{しゅつがふのう}インゲンマメ、^{かる}アズキ、^{けっかぶ}ダイズなどで^{さいはん}大きな被害を受けることが多く、^{さいはん}再播を^{さいはん}余儀なくされることもあります。湿気の多い^{しゅつがふのう}粘質^{かる}地などで^{しゅつがふのう}多発し、^{かる}播種期に^{しゅつがふのう}土壤水分が多くなると^{かる}被害が大きくなります。また、^{しゅつがふのう}有機質肥料の^{かる}施用や^{しゅつがふのう}緑肥、^{かる}牧草などを^{しゅつがふのう}播種直前に^{かる}すき込むと^{かる}被害が多くなります。

3 経過習性と形態

年5回の発生で、低温年を除き、盛夏には発生が少なくなって世代の経過が不鮮明になります。
^{さなぎたい}蛹態で^{えつとう}地中5～20 cmのところで^{えつとう}越冬します。成虫は5月上旬から発生し、5月下旬ころ最盛期になります。この時期はマメ類の^{えつとう}播種適期と重なるため、マメ類で被害を受けやすくなります。

^{さんらん}産卵は^{こうき}耕起したばかりの^{どかい}湿気を帯びた^{ようか}土塊の間に^{さんざ}点々と^{さんざ}産みつけます。卵期間は5～6日間で、^{さんざ}幼虫期間は約2週間、6月中旬頃に^{さんざ}地中で^{さんざ}蛹化し、^{さんざ}10日内外の^{さんざ}蛹期間を経て^{さんざ}成虫になります。その後^{さんざ}晩秋まで^{さんざ}各種の植物を加害して^{さんざ}発生を繰り返します。

成虫は^{ぎよかす}魚粕、^{だいずかす}大豆粕、^{けいふん}鶏糞、^{みじゆくたいひ}未熟堆肥、^{ざんさ}植物残渣など^{みぶんかい}未分解^{ゆうきぶつ}有機物の^{ふはいしゅう}腐敗臭に^{ゆういん}誘引されます。

成虫は体長が5mm内外、雌は^{はいおうしよく}灰黄色、雄は^{あんかつしよく}暗褐色～^{あんおうかつしよく}暗黄褐色です。胸背にはやや濃色の3本の^{たてすじ}縦条があります。卵は^{たてすじ}長径約0.6 mm、^{たてすじ}長楕円形で^{たてすじ}乳白色を呈しています。

幼虫は^{ろうじゆく}老熟したもので^{ろうじゆく}体長約6mm、^{ろうじゆく}体色は^{ろうじゆく}乳白色～^{ろうじゆく}青白色、^{ろうじゆく}頭部は^{ろうじゆく}細まり、^{ろうじゆく}後方は^{ろうじゆく}しだいに^{ろうじゆく}太く、^{ろうじゆく}尾端は^{ろうじゆく}裁断状をなして、^{ろうじゆく}その背面には^{ろうじゆく}2個の^{ろうじゆく}気門を^{ろうじゆく}有します。

^{さなぎ}蛹は^{さなぎ}体長5mm内外、^{さなぎ}俵状で^{さなぎ}暗褐色です。

4 防除法

- (1) 成虫は^{みぶんかい}未分解^{ゆうきぶつ}有機物の^{ふはいしゅう}腐敗臭に^{ゆういん}誘引されるので、^{ゆうきしつひりよう}有機質肥料や^{みじゆくたいひ}未熟堆肥の^{りよくひ}使用、^{りよくひ}緑肥、^{りよくひ}植物残渣等の^{はしゅちよくぜん}播種直前の^さすき込みを^さ避けましょう。
- (2) ^{こうき}耕起後、^{せいち}整地するまではできるだけ^{どかい}土塊を作らないよう^{どかい}ていねいに^{どかい}仕上げます。
- (3) ^{はしゅちよくぜん}播種直前に^{しゅし}種子に^{ふんいざい}粉衣剤を^{しより}処理するか、^{さくじよう}作条に^{しよてい}所定の^{やくざい}薬剤を^{ほどこ}施すと^{ほどこ}効果があります。

「鉢植え観葉植物の植え替え」

～株を生き返させる「植え替え」のコツ～

1. 植え替えは1～3年に1回は必要

観葉植物のように鉢植え園芸の場合は、生長するにつれて鉢の中に根が^{じゅうまん}充滿し、土も老化して育ちが悪くなってきます。生長の早い種類は毎年、遅いものでも3年に1回は植え替えが必要です。

2. 植え替えのタイミング

○鉢に対して株が大きく生長しバランスが悪くなっている。

○購入して2年以上経過している。

○鉢底の穴から根が張り出している。

○水を与えても用土にしみ込まない。

3. 植え替え時期は5月から

観葉植物は寒さに弱いため、植え替えは気温が18℃以上になる5月に入ってから行います。生育が始まって間もない時期に植え替えさせると、植え傷みする心配がありません。

4. 用土は種類によって使い分ける

水分を好むもの、乾燥に強くて湿気に弱いもの、肥料分がたくさん必要なものなどさまざまです。植え替え用土は、排水性、保水性が高く、それぞれの性質に合った配合土を使い分けすることが大切です。

5. 植え替えとその後の管理

鉢から株を抜き、古土や枯れ根を落とします(全体をほぐす要領で)。新しい鉢に底網またはゴロ土を入れます。株を新しい鉢に入れて用土を入れます。かん水して微塵を洗い流します。

植替えた後は1週間くらい半日陰におきます。2週目以降も観葉植物はそのまま半日陰で管理します。根腐れの恐れがあるので、肥料は根が完全に活着する1～2ヶ月後くらいから徐々にあげます。

元肥が入っている場合は、半年ぐらいいは肥料をあげなくても順調に生育します。



展示室の植物（60）

ゲツキツ（和名：月橘、別名：シルクジャスミン）

学名 *Murraya paniculata* ミカン科 ゲツキツ属



原産地は奄美大島以南、東南アジアに分布しています。

常緑性の小低木で、芽吹き力が強いので熱帯地方では庭木や生垣に利用されます。一般には鉢植えにして観葉植物として楽しむことが多いようです。

葉は小ふりで奇数羽状複葉で光沢があり、直径2cmほどの芳香のある純白の花を枝先にたくさん咲かせます。花後に直径1cmほどの赤い果実をつけ、長期間色あせせず、美しい色を保ちます。

果実は生のまま食べるほか、ジャムなどに加工できます。

葉も香辛料として利用されます。